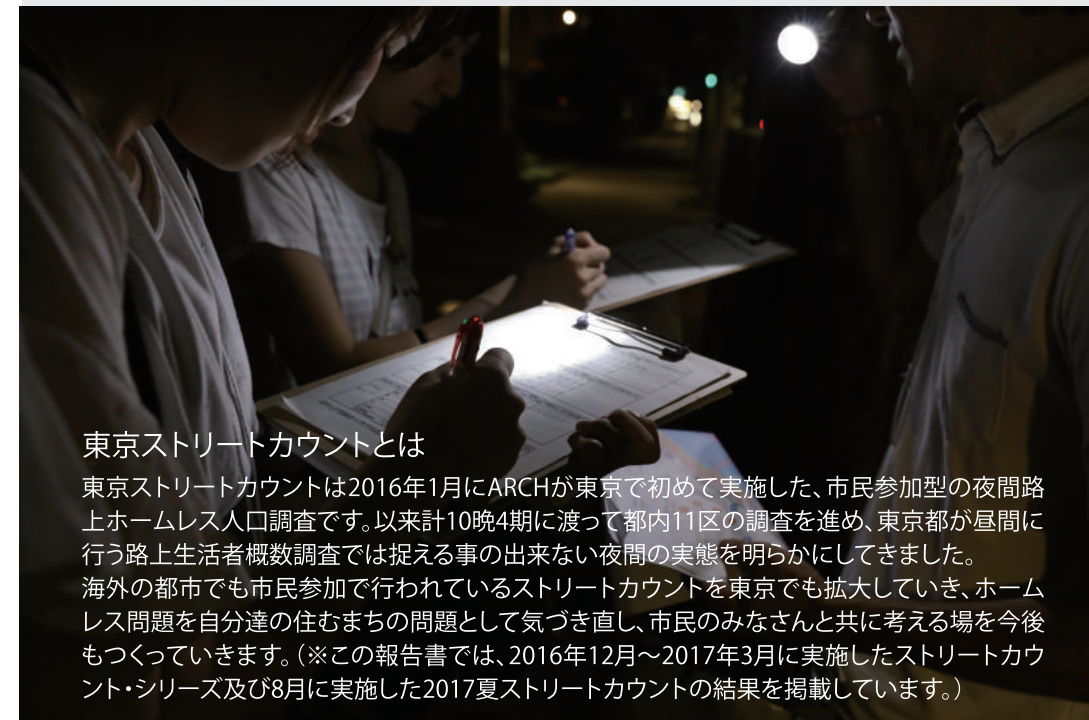




Tokyo Street Count Annual Report 2017

2017東京ストリートカウントプロジェクト報告書



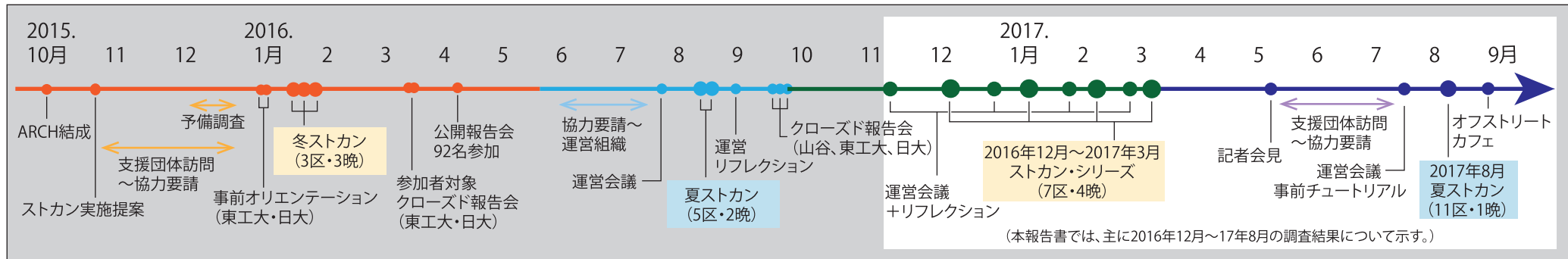
東京ストリートカウントとは
東京ストリートカウントは2016年1月にARCHが東京で初めて実施した、市民参加型の夜間路上ホームレス人口調査です。以来計10晩4期に渡って都内11区の調査を進め、東京都が昼間に行う路上生活者概数調査では捉える事の出来ない夜間の実態を明らかにしてきました。海外の都市でも市民参加で行われているストリートカウントを東京でも拡大していき、ホームレス問題を自分達の住むまちの問題として気づき直し、市民のみなさんと共に考える場を今後もつくっていきます。(※この報告書では、2016年12月～2017年3月に実施したストリートカウント・シリーズ及び8月に実施した2017夏ストリートカウントの結果を掲載しています。)

写真:間庭裕基

主催: ARCH(Advocacy and Research Centre for Homelessness)
東京ストリートカウント運営チーム



東京ストリートカウントプロジェクトの流れ



ストリートカウント(ストカン)プロジェクトでは、当日の調査以外に予備調査やチュートリアル、クローズドの報告会や「オフストリートカフェ」(意見交換・交流の場)を設けてきた。ストカンの回数を重ねるにつれ、参加者や協力者は増え、その多様性も広がってきた。多くの市民と一緒に問題意識を分かち合い、共に考え、議論した。ストカンを通して、ホームレス問題を共に考える市民の輪がこうして広がっていくことを期待している。

【冬ストカン調査中】
新たな区に調査範囲を広げた。
2017年1月



【事前チュートリアル】
班長を育成する事前調査。
2017年7月



【夏ストカン調査中】
200名の参加やメディア取材を受けた。
2017年8月



【オフストリートカフェ】
ストカン参加者とカフェ形式でトーク。
2017年9月



アウトカム～実態調査の結果

《都内11区で昼間調査の約2.6倍の路上ホームレス人口を確認》

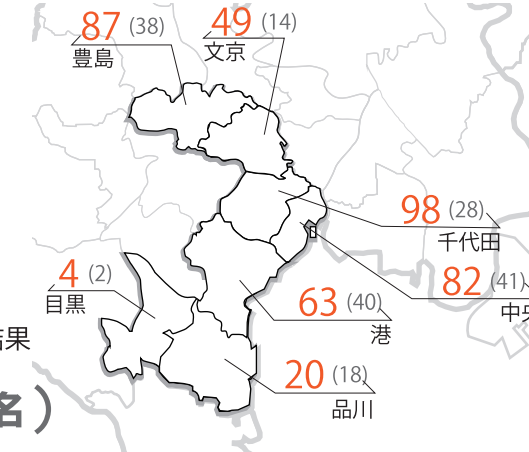
冬ストカン・シリーズ(2016年12月～2017年3月)

2016年12月から17年3月までの4晩で行われた冬ストカン・シリーズでは7区合計で403名の方が記録された。同時期に行われた東京都による調査結果の約2.2倍だった。

参加者数 **189名**

2017冬
ストカンの結果

403名 (181名)
都調査の結果



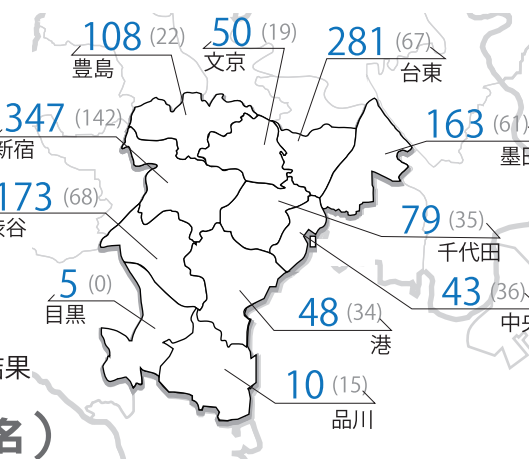
夏ストカン(2017年8月)

2017年8月4日の1晩で行われた夏のストリートカウントでは11区合計で1307名の方が記録された。同時期に行われた東京都による調査結果の約2.6倍だった。

参加者数 **200名**

2017夏
ストカンの結果

1307名 (499名)
都調査の結果



ソーシャル・インパクト～市民参加の状況

《多様な市民399人^(※)が参加し、多大なエネルギーが投じられた》

※…399名は2016年1月のストカンからの参加者実数の合計

投じられた市民のエネルギー

これまでの参加者人数 参加者が調査に要した時間の総和 徒歩参加者が歩いた距離の総和



どんな市民が参加し、どんなことを考えたのか?

学生を中心に多様な市民の参加を得た。半数以上は、普段ホームレス支援の活動や研究に関わることのない市民であり、ストリートカウントがホームレス問題を考えはじめる入り口となっている。

399名の市民は…

41大学の学生・教員 **14支援団体のワーカー**
約6割が学生 **13行政機関の関係職員**
日常的にホームレスに関わっているか? **中学生～60歳代**
はい:172 いいえ:202 (不明:25)

私たち活動している側が、実数を知り、広く市民に伝えていき、共に考えていけるようにしなくてはと思った。(支援団体)

路上生活者の存在は夜間の方が認識されやすいからこそ、住民の目には見えにくい問題になりがちだと思った。(大学生)

23区内のなかでも数や過ごし方に地域差があることがよくわかった。行政としても地域差を考慮した対応を考えるべきだと感じた。(行政職員)

幹線道路沿いの低層オフィスの軒下に就寝している方があり、「こんなところにも」という驚きがあった。(一般)

シドニーやロンドンなど過去の大会開催都市では、オリパラを機に社会が本気でホームレス問題に取り組み、新たな政策や事業、芸術・文化活動などのレガシーを遺してきました。しかし東京には現在、オリパラに向けたホームレス政策の動きはなく、支援施策の根拠となるホームレス人口についても、昼間調査の値が採用されたままです。私たちは東京ストリートカウントを通じ、正確なホームレス人口を知ることの必要性を訴え、同時に、何より人数や実態を知ってこの課題に真剣に取り組もうとする東京の姿勢を求めています。

2017年5月2日、ARCHは東京都庁記者クラブにおいて記者会見を開き、東京ストリートカウントの結果報告と提言を行いました。まず**提言①「本気で問題に取り組む東京の姿勢の宣言」**として、東京がホームレスの人々を周縁に追いやりながら支援施設を提供するのではなく、排除しないという宣言のもと包摂に向け真剣に取り組むことを求めました。次に**提言②「ハウジングファースト×地域とつながる仕事」**とし、上記の宣言をした上で、ホームレスの人々が施設ではなく自身の住宅において支援を受けられるよう仕組みを転換すること、住宅で落ち着いたら地域の人たちと交流できるようなまちの中の仕事を生み出すことを提案しました。最後に提言①②を実現する力として、**市民が自身のまちのホームレス問題にどう対応すべきか考え話し合うこと、そうした市民のネットワークを2020年東京のレガシーとしていこうと述べました。**

ARCHではその他にも、東京ストリートカウントの調査結果や研究活動から得られた知見を生かし、議会発言やパブリックコメントなどの形でアドボカシーを行っています。

ARCH共同代表 北島拓也・河西奈緒

(写真左)2017年4月18日
住宅セーフティネット法改正に関してARCHメンバーの土肥真人が参考人として参議院国土交通委員会にて意見を発表しました。(画像は参議院インターネット審議中継<http://www.webtv.sangi-in.go.jp/webtv/index.php>より)

(写真右)2017年5月2日
東京都庁記者クラブでの記者会見を開催。上記の提言を発表し、複数紙で報道されました。



2018にチャレンジしたいこと

ホームレス問題に取り組む市民発のレガシーを創るため、ARCHが2018年に挑戦すること

☑累計500名が東京ストリートカウントを経験

2018年3月までに、累計500名(実数)の市民がストカンを経験したことになる

☐市民1000名参加の東京ストリートカウントを実施する!!

2500名がストカンに参加するニューヨークに学び、東京を2018年夏に1000名がストカンに参加する都市にする!

☐市民100名がオフストリートカフェに参加

市民がホームレス問題や都市について考え話し合う場をつくる

☐市民500名のストリート・ウォッチャーによる見守り

市民による日常的な見守りの仕組み・ネットワークを構築する



twitter: @arch_cd
Facebook: ARCH
最新情報は上記からご覧ください

2017年東京ストリートカウント・プロジェクト報告書

2018年2月作成

<制作> ARCH(Advocacy and Research Centre for Homelessness)

<連絡先> arch.cd.office@gmail.com

<リンク> ARCHウェブサイト: <http://archcd.wixsite.com/arch>
東京ストリートカウント特設サイト: <https://streetcount.wixsite.com/arch-tsc>

本報告書: <http://archcd.wixsite.com/arch/tokyo-street-count>

《都内11区での深夜調査》

2016年12月から2017年3月のストカン・シリーズでは4晩で7区を、8月4日の夏ストカンでは1晩で11区を対象に、それぞれ終電後から始発までの深夜帯に調査を実施。ストカン・シリーズではのべ189名、夏ストカンでは1晩に200名のボランティアが参加。参加者は各班に分かれ、道路、公園、駅、河川、各施設などを調査した。調査の詳細を以下に示す。

	ストカン・シリーズ(12月~3月)				夏ストカン(8月)
実施日程	12月2日	1月12日	2月17日	3月9日	8月4日
対象区	千代田・中央(北)	渋谷・目黒	豊島・文京	港・中央(南)	これまで調査した11区全て
参加人数	52名	41名	57名	39名	200名
天候	晴れ	晴れ	曇り	快晴	曇り時々雨
調査手法	目視による確認調査				
調査対象	路上や公園などで寝ている人。調査時に寝ていないが路上生活しているとみられる人				
記録方法	記録シートに下記項目を、各班のエリアマップに時間と場所を記入				
記録項目	・時間、場所 ・場所分類(道路、公園、駅、河川、公共施設、その他施設)…☆ ・野宿の状態(常設、仮設、その他)…☆ ・特徴や状況 ・性別(男性、女性、不明) (☆印に関しては区別の集計を下に記載した。区別集計では公共施設とその他施設を併せてその他とした。)				
班編成	徒歩:9班 車:3班	徒歩:7班 車:2班	徒歩:13班 車:1班	徒歩:8班 車:2班	徒歩:44班 車:4班

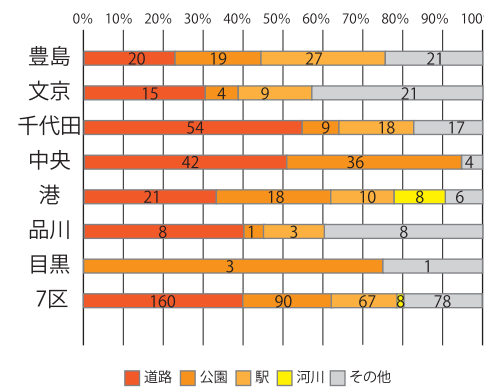
調査の結果

冬ストカン・シリーズ(2016年12月~2017年3月)

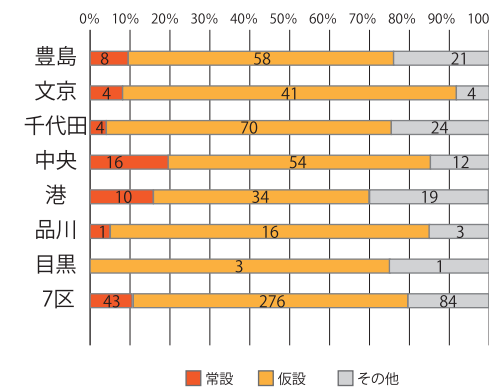
【各区結果】

	a)ストカ結果	b)都調査	倍率(a/b)
豊島区	87名	38名	2.29倍
文京区	49名	14名	3.50倍
千代田区	98名	28名	3.50倍
中央区	82名	41名	2.00倍
港区	63名	40名	1.58倍
品川区	20名	18名	1.11倍
目黒区	4名	2名	2.00倍
7区合計	403名	181名	2.23倍

【寝場所の分類別 集計】



【野宿の状態別 集計】



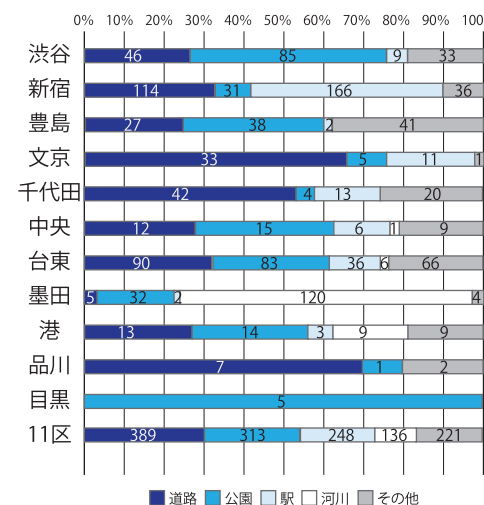
ストカン・シリーズは主にこれまで調査していない区を対象に7区で実施した。その結果と同時期(2017年1月)の東京都による概数調査の結果を比較した。

夏ストリートカウント(8月)

【各区結果】

	a)ストカ結果	b)都調査	倍率(a/b)
渋谷区	173名	68名	2.54倍
新宿区	347名	142名	2.44倍
豊島区	108名	22名	4.91倍
文京区	50名	19名	2.63倍
千代田区	79名	35名	2.26倍
中央区	43名	36名	1.94倍
台東区	281名	67名	4.19倍
墨田区	163名	61名	2.67倍
港区	48名	34名	1.41倍
品川区	10名	15名	0.67倍
目黒区	5名	0名	-倍
11区合計	1307名	499名	2.62倍

【寝場所の分類別 集計】



夏ストカンでは山手線沿線11区を調査した。その結果と同時期(2017年8月)の都調査を比較した。

《深夜に集合し終電後の街をくまなく歩いて調査》

調査当日、ボランティア参加者は深夜0:30に集合場所に集合。本部から説明を受け、各班に分かれてルート等を確認。徒歩班は各班ごとに割り当てられたエリアを、2~3時間かけてくまなく調査した。調査後は待機場所に帰還し、その場で結果を集計し、共有した。

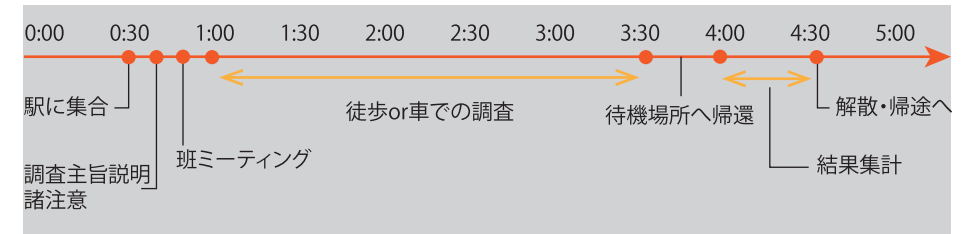


写真: 間庭裕基

ARCHについて

ARCH(アーチ: Advocacy and Research Centre for Homelessness)は東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、2015年10月に発足した市民団体です。東京工業大学で都市デザインやコミュニティ・デザインを専門とする学生や教員が中心となり設立しました。

ホームレス問題に関するアドボカシー(政策提言)と研究を行うチームで、現在は研究者や学生に加え、支援団体の現場ワーカー、法律家などのプロボノワーカーがメンバーとなっています。

私たちは、人が人を大切に、支え合う営みが、人と場所を結びつけ、柔軟な強さを地域に与える、そんな地域がたくさんある柔軟で強く優しい都市を目指しています。そして2020年の東京が、華やかな大規模イベントの裏で社会的・経済的に弱い立場にある人々を周縁に追いやらない、多様な人々が共に暮らし支え合う営みをレガシーとして後の社会に遺せるよう、働きかけていきます。

